OITA UNIVERSITY
大分大学

大分大学医学部附属病院

かけはし

WINTER
第92号
令和5年1月1日

［発行］大分大学医学部附属病院広報委員会

新年のご挨拶

大分大学医学部附属病院
病院長　三股 浩光

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年も新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）が大流行しましたが、幸いワクチンや新薬の開発により、本年は徐々に下火になっていくものと思われます。

本院は大分県唯一の国立大学病院で、多くの高度な先端医療を行なっています。昨年は国産手術支援ロボット「hinotori（ヒノトリ）」を導入し、従来から使用している「DaVinci（ダビンチ）」と併せて２台体制として、消化器外科や呼吸器外科、腎臓外科・泌尿器科、産科婦人科の協力により、低侵襲手術センターを設立しました。ロボット手術の技術を向上し、安全な手術の実施に努めております。放射線科では、合併症の少ない放射線治療や腎がんの凍結療法など、手術をせずにがんを治せる機器を導入しました。さらに循環器内科及び心臓血管外科の血管内治療や、消化器内科の内視鏡治療など、体にやさしい医療を目指しております。このような診療内容の一部は、外来の待合にて動画で紹介しており、今後も随時、動画を追加する予定ですので、ご覧いただけましたら幸いです。また、昨年より大分市中心部で市民公開講座を定期的に開催し、病気や治療法の説明をしております。本院ホームページやJR大分駅のデジタルサイネージなどで案内していますので、皆様には是非ご参加いただき、忌憚のないご意見をお願いいたします。

2024年４月より医師の働き方改革が始まります。これまでは医師の時間外労働時間に制限がなく、皆様の要望に応えて、時間外（夜間や土日等の休日）でも病状や検査結果、治療方針等を説明していました。しかし、これからは全ての病院で医師の時間外労働の上限が定められます。目的は、医師の健康を維持し、疲労による医療事故の発生を防ぎ、安全な医療を提供することです。緊急の場合は、これまで通り夜間や休日でも対応いたしますが、皆様には本趣旨をご理解いただきまして、勤務時間内での診療にご協力をお願いいたします。

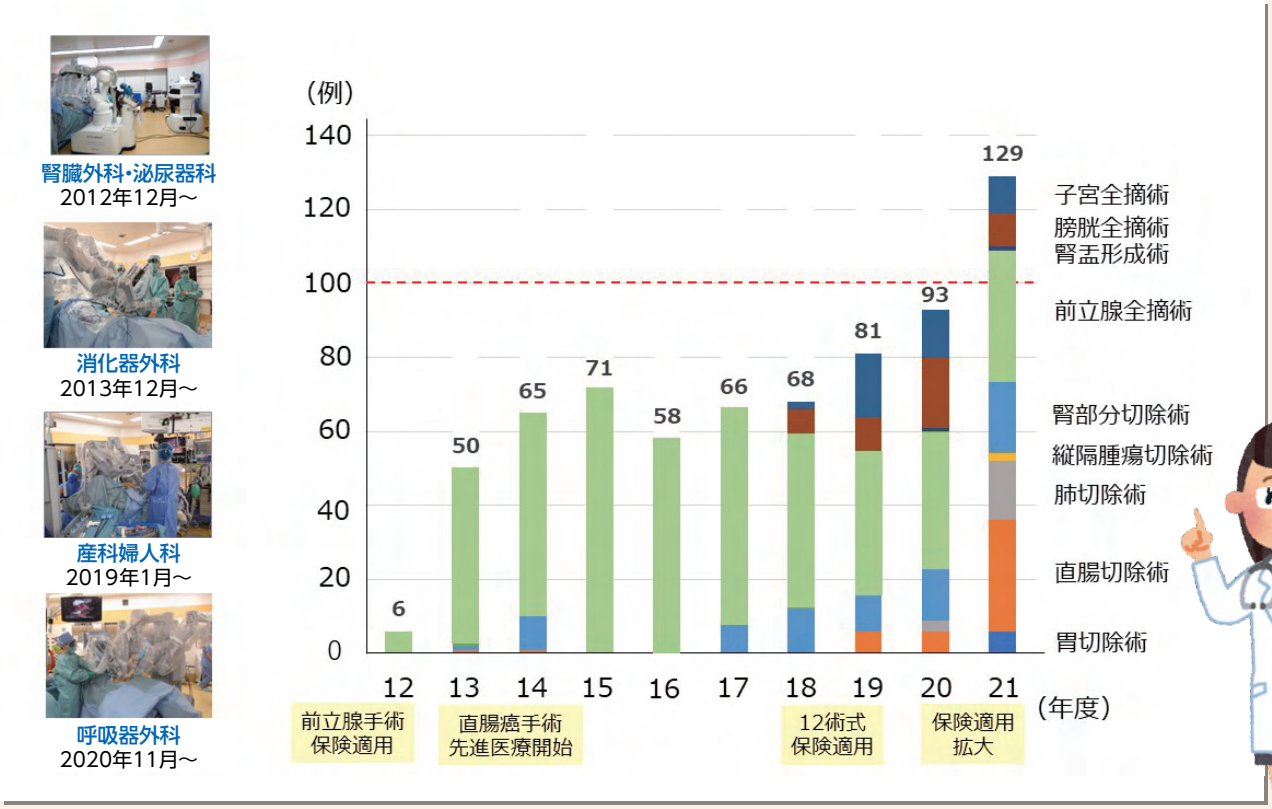
末筆になりましたが、皆様のご多幸をお祈りしますとともに、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

からだに優しい手術（低侵襲手術）を安全に行うために

～低侵襲手術センター開設 新しい手術ロボット「hinotori™」導入～

大分大学医学部附属病院では**図1**に示すように、年々、からだの負担が少ないロボット手術が増えています。それらの背景から、①ロボット手術などの新しい手術の効率良い運営、②手術の安全管理の更なる向上、③高度な技術を有する医療人育成、を目的として、2022年8月1日に低侵襲（ていしんしゅう）手術センターを開設しました（センター長：猪股雅史 副病院長、副センター長：腎臓外科・泌尿器科 秦 聡孝 教授）。

図1 大分大学医学部附属病院のロボット手術年次推移

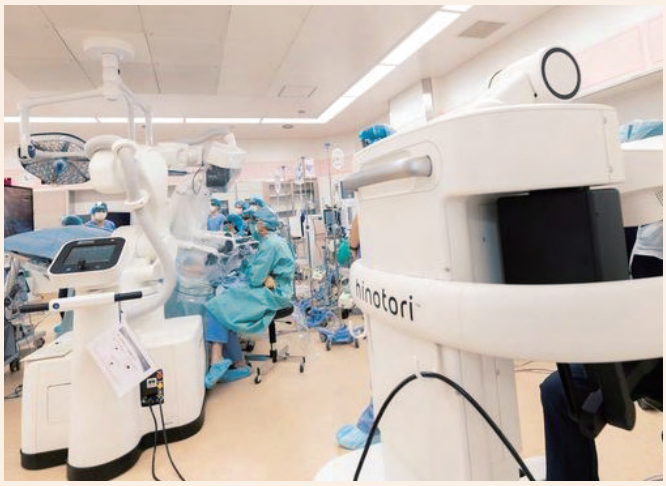


また当院でロボット手術が増加していることから、現在までのda Vinci®に加え、国産初の手術ロボット「hinotori™」を導入し2台体制で手術が行えるようになり、2022年8月に「hinotori™」を用いたロボット前立腺全摘術を九州で初めて行いました（**図2、3**）。この患者さんの手術後は経過が良く、2022年10月末までに10名の患者さんに手術を行っております。

ロボット手術の長所は、①精密な3D画面での手術操作、②細かい手の動きが可能なこと（モーションスケール機能）、③関節機能が多数あり、人間でも不可能な手の動きが可能なこと、④手ブレがなく、安定した手術が可能なこと、などがあげられます。また遠隔からの操作が可能であり、将来的には遠方にいる医師が手術（遠隔手術）や指導（遠隔手術指導）が実現できると考えられています。

当院では腎臓外科・泌尿器科が2012年12月よりロボット手術を導入以降、消化器外科、産科婦人科、呼吸器外科が次々に導入しており、消化器外科領域、産科婦人科領域、呼吸器外科領域でロボット手術が行える県内唯一の医療機関となっております。

図2、3 九州初の「hinotori™」を使用したロボット前立腺全摘術



また低侵襲手術センターの取り組みとして、2022年10月25日－27日に大分ロボット手術体験セミナーを開催しました。本セミナーでは、医療スタッフだけでなく、一般職員や学生が実際の手術ロボットを体験できるようなプログラムを行いました（**図4**）。この取り組みは県内の報道機関に大変注目され、民放3局やNHKから取材・テレビニュースが報道されることになりました。また一般市民に向けては2022年11月6日に市民公開講座「もっと知りたい！からだに優しいロボット手術」を開催し、ロボット手術の啓発活動に努めました（**図5**）。

図4 大分ロボット手術体験セミナー

これからも本センターの取り組みを通じて、①患者さんの手術待ち時間を短縮する効率的な手術ロボットの運用、②安全管理体制の更なる強化、③高度技術を有する医療人育成に努めていく予定です。

図5 11月6日開催 市民公開講座

（文責：副病院長・低侵襲手術センター長　猪股 雅史）

おしえて！

「血液内科」はどんな病気を診るの？

「血液内科」という診療科は一般にはなじみが少ないかもしれません。血液の成分である赤血球、白血球、血小板は骨髄で作られ、血液中に放出されます。血液内科では主にこの血球に異常をきたす病気の診断と治療を行います。具体的には骨髄のがんである「白血病、多発性骨髄腫」、リンパ節（リンパ組織）のがんである「悪性リンパ腫」、造血障害をきたす「再生不良性貧血、骨髄異形成症候群」、その他血小板減少症や貧血をきたす疾患などです。それぞれの病気の診断と治療には高い専門性が必要となります。そのため血液内科は多くの場合体制が充実した大きな病院に設けられます。

白血病や悪性リンパ腫は抗がん剤治療が有効であり、標準的な治療をうけた患者さんの約半数で治癒や長期生存が得られます。しかし抗がん剤が効きにくい病型もあり、抗がん剤治療後に再発することもあります。そのような「再発・難治」の血液がんに対しても可能なかぎり治癒を目指します。再発・難治の白血病などには骨髄移植、臍帯血移植などの「同種造血幹細胞移植」を積極的に行います。当科は骨髄・臍帯血バンクの移植認定施設であり、最も体制が充実していることを示す施設認定基準の「カテゴリ−1」を取得しています。また難治性血液疾患に対しては新規治療法が急速に開発されており、私たちは当院でのその早期導入に努めています。患者さん自身の免疫細胞にがん細胞を攻撃する遺伝子を導入し、これを治療に用いる「CAR-T療法」は再発・難治の悪性リンパ腫や急性リンパ性白血病に対する大変高い治療効果が報告されています。CAR-T療法を行うためには高いレベルの施設基準をみたす必要があり、国内でこれを行える施設は少ない（代表的なCAR-T療法のキムリア治療は九州では現時点では九州大学病院のみ実施）のですが、当院では関連部署一丸となって準備を行っており、2023年初頭から開始できる予定です。これにより大分在住の患者さんが遠方に出向かなくてもCAR-T療法を受けることが可能になります。

患者さんは若い方から高齢の方までおられ、その背景も様々です。血液疾患の治療では長期の入院を要することが多く、外来も含めた治療期間は年単位となります。副作用や妊孕性の問題、家族ともっといたいとの思い、仕事の継続が困難となる、など多くの問題をかかえます。患者さんや家族が治療生活を安心して過ごしていただくために医師、看護師、薬剤師、移植コーディネーター、理学療法士、検査技師、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種でカンファレンスを行い、チームで患者さんひとりひとりにあわせた医療サービスの提供に努めています。

（文責：診療科長　緒方 正男）

「特定看護師」が誕生しました。

看護師の業務は、保健師助産師看護師法により、「診療の補助」と「療養上の世話」と定められています。特定機能病院である当院の看護師は、医師の指示に従い、検査や処置、注射など多くの診療の補助業務を行っています。

少子超高齢社会における医療ニーズに応えるため、従来は看護師が行うには難易度が高いとされていた医療行為について、研修を受講した看護師が実施できる診療の補助行為として「特定行為」が位置づけられました。特定行為を実施するためには、指定された研修機関での研修を受講し、特定行為ごとに修了の認定を受けます。令和４年３月時点の研修機関は319機関あり、４月時点の研修修了者は全国で4,832人となっています。

当院では、令和３年８月に厚生労働省から特定行為研修の指定研修機関として認定され、同年10月から研修を開始しました。看護師資格取得後５年以上の実務経験のある看護師が働きながら１年かけて研修を受講します。座学だけでなく、実習で医師から直接指導を受け、医学的知識・技術を強化した上で、病態の変化や疾患、患者の背景等を包括的にアセスメントし、安全に配慮して特定行為を実施できる能力を身につけています。研修終了時は、必要な知識や技能を獲得できているか試験を行い、令和４年９月に４名の研修修了を認定しました。

当院では、この研修修了者を「特定看護師」と呼称し、質の高い医療・看護を提供することができるように体制を整えています。当院以外の研修機関で研修修了を認定された看護師も含め、令和４年11月現在、当院には７名の「特定看護師」が勤務しています。医師の指示に基づき、高度で専門的な知識と技能を有した看護師として、医療の質向上に貢献できるよう、努力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（文責：看護部長　冨永 志津代）

特定看護師のバッチ

あなたの声を待っております

良い病院になるために

患者さんの声は、要約して載せておりますので
ご了承願います。

声 2階整形外科病棟の浴室のシャワーヘッドが重くて握りづらく、高齢者やリウマチの患者には、（手に持って使う場合）手への負担が多くて大変です。取り換えを希望します。

回答 ご意見ありがとうございます。
浴室内のシャワーヘッドを軽くて握りやすいものに交換いたしました。

（施設管理課）

声 入院中の食事がパン食の場合、マーガリン、ジャムを付けたりすることが不器用で困難です。パンは好きなので、できればそういう物を付けなくてもよいパン（メロンパンなど）を出して頂ければ幸いです。

回答 病院給食に対する貴重なご意見、ありがとうございます。
ジャムや醤油、ドレッシングなど小分けになっている調味料は細かい作業が必要となり、使いづらいとのお声をいただくことがあります。小分けの調味料を使う頻度を減らせるように献立を見直していく必要があると考えております。
また、使用する商品も定期的に見直しておりますが、開封のしやすさなども検討の際の視点としていきたいと思います。
お食事の際に手助けが必要と感じられる方は、遠慮なく病棟スタッフにお声掛けください。

（栄養管理室）

＼ 感謝の声 ／

声 15年以上悩み、苦しんでいた病気から、今回の手術で解放されることができました。主治医の先生はもちろん、チームとして手術に関わってくださった方、お世話をしていただいた看護師やスタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
また、毎日のリハビリでは、向き合い、寄り添っていただき、筋力アップやバランスなどの体のケアはもちろん、何気ない会話から気がかりなことを話せたり、退院後の見通しがもてたり、心のケアまでしていただき、どれほど心強く温かく支えられていたかわかりません。本当にありがとうございました。

回答 うれしいお言葉ありがとうございます。我々は単に運動を行ってもらうものではなく、患者さんの不安が少しでも軽くなるように接するように心掛けています。
今回のお言葉をいただき、より一層励んでいきたいと思います。

（リハビリテーション部）

大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地　TEL 097-549-4411（代）
大分大学医学部附属病院ホームページ　http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

子育てサポートしています 2011年認定事業主